

January 22, 2021

**【前日の為替概況】ユーロドル、反発 ECB 総裁が下振れ見通しの弱まりやインフレ圧力に言及**

21日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反発。終値は1.2164ドルと前営業日NY終値(1.2106ドル)と比べて0.0058ドル程度のユーロ高水準だった。ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁が定例理事会後の記者会見で「短期的な見通しは下振れリスク」「不確実性は依然として高い」としながらも、「経済動向は12月の基本予測にほぼ沿っている」「見通しの下振れリスクは以前よりも顕著ではなくなった」と述べたほか、インフレについて「今後数カ月、上昇する公算」「経済が回復するにつれてインフレ圧力は上向く公算」と指摘すると、欧州長期金利が上昇。ユーロ買いが優勢となり、23時前に一時1.2173ドルと日通し高値を付けた。

ラガルド総裁が為替相場を注視していく姿勢を改めて表明すると一時1.2136ドル付近まで値を下げたものの、下押しは限定的だった。

ドル円は小幅続落。終値は103.50円と前営業日NY終値(103.54円)と比べて4銭程度のドル安水準だった。21時30分前に一時103.33円と7日以来の安値を付けたものの、22時30分発表の前週分の米新規失業保険申請件数や1月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数、12月米住宅着工件数が予想より良好な内容だったことが分かると、円売り・ドル買いが優勢に。23時過ぎに一時103.66円付近まで値を上げた。ただ、アジア時間に付けた日通し高値103.67円を上抜けることは出来なかった。NY午後に入ると、新規材料難から様子見ムードが広がり103円台半ばで値動きが鈍った。

なお、次期財務長官に指名されているジャネット・イエレン氏は「為替操作の問題はバイデン大統領とともに取り組む」「対中関税については同盟国の意見を聞かずに変更することはない」などと述べたが、相場の反応は限られた。

ユーロ円は反発。終値は125.93円と前営業日NY終値(125.35円)と比べて58銭程度のユーロ高水準。ラガルド総裁が会見で「成長リスクは引き続き下向きに傾いているものの顕著ではない」と指摘したことを受けて、欧州長期金利が上昇。23時前に一時125.97円と本日高値を付けた。ラガルド総裁が「為替レートを非常に注意深く見守っている」と発言すると125.70円付近まで伸び悩む場面もあったが下値は堅く、引けにかけて強含んだ。

**【本日の東京為替見通し】ハネムーン期間終了までは株高・ドル安か、ただし対円は蚊帳の外？**

本日のドル円も小動きとなるか。ダウ平均こそは小反落で引けたものの、ナスダック総合やS&P500は再び史上最高値を更新して引けている。昨日はECB総裁の発言などがドル売り・ユーロ買いになった側面はあるものの、堅調な株値の値動きがドル売りを促している面もある。欧州通貨やオセアニア通貨に対してドル安が進んでいることで、株値上昇の円売りという動きはあるが、ドル円だけドル買いに一方的に傾くのも難しく、ドルの上値はリスクオンで抑えられるだろう。しかし、下値も底堅く推移し、ここ最近のレンジを見ていると大きな値動きを期待するのは難しく、引き続きこの何日間のレンジを大きく超えることを期待するのは難しそうだ。

欧州通貨やオセアニア通貨に対してはドル安が進むか。ユーロに関してはECB理事会が終了したことで、これから欧州要人による通貨高けん制発言が出る可能性、伊独と政治不安がいったんは解消されているが依然として他国では政局が不安定なこと、ウイルス感染拡大が収まらないことなどで、ユーロ売り要因もあることで気迷い相場になりそう。しかし、バイデン政権のハネムーン期間が終わるまでは株値が堅調地合いを維持できそうなことで、ドル売り・ユーロ買い意欲は継続するか。ただし、本日は欧州各国から各種PMIの速報値が発表されることで、経済指標を確かめながらの値動きにはなりそう。

オセアニア通貨も底堅い動きが期待できるか。NZがウイルスの感染拡大を抑えているだけでなく、豪州もニューサウスウェールズ(NSW)州などは3日連続で感染をゼロに抑えるなど、オセアニアは他国と比較すると感染抑制で経済が順調に回復する可能性が高まっている。中長期的にはオセアニア通貨高になりそう。ただし、NSW州西部と南部を覆っている熱波が東に移動しており、今後4日間、シドニー都市圏の気温は異常高温になると予測されていることなど、経済的な影響もあり留意しておきたい。なお、本日は豪州から12月の小売売上高が発表される。12月はウイルス変異種が確認され規制が強化されたこともあり、前月比では2.5%減程度になると予想されている。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ☆ 12月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比▲1.1%）
- 08:30 ☆ 12月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比▲0.4%）
- 未定 ◇ 1月月例経済報告

## &lt;海外&gt;

- 06:45 ◎ 10-12月期ニュージーランド（NZ）消費者物価指数（CPI、予想：前期比横ばい／前年比1.0%）
- 09:01 ◇ 1月英消費者信頼感指数（Gfk調査、予想：▲29）
- 09:30 ◎ 12月豪小売売上高（予想：前月比▲2.5%）
- 16:00 ◎ 12月英小売売上高（自動車燃料含む、予想：前月比1.2%／前年比4.0%）
- 16:00 ◎ 12月英小売売上高（自動車燃料除く、予想：前月比0.8%／前年比7.0%）
- 17:15 ◎ 1月仏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値（予想：50.5）
- 17:15 ◎ 1月仏サービス部門PMI速報値（予想：48.5）
- 17:30 ◎ 1月独製造業PMI速報値（予想：57.5）
- 17:30 ◎ 1月独サービス部門PMI速報値（予想：45.3）
- 18:00 ◎ 1月ユーロ圏製造業PMI速報値（予想：54.5）
- 18:00 ◎ 1月ユーロ圏サービス部門PMI速報値（予想：44.5）
- 18:30 ◎ 1月英製造業PMI速報値（予想：54.0）
- 18:30 ◎ 1月英サービス部門PMI速報値（予想：45.0）
- 22:30 ◎ 11月カナダ小売売上高（予想：前月比0.1%／自動車を除く前月比0.3%）
- 23:45 ◎ 1月米製造業PMI速報値（予想：56.5）
- 23:45 ◎ 1月米サービス部門PMI速報値（予想：53.6）
- 23:45 ◎ 1月米総合PMI速報値
- 24:00 ◎ 12月米中古住宅販売件数（予想：前月比▲2.0%／年率換算655万件）
- 23日 01:00 ◇ EIA 週間在庫統計

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

21 日 09:26 米ホワイトハウス

「バイデン米首相の最初の電話会談は、22 日金曜にトルドー加首相の予定」  
「トルドー加首相とはキーストーン XL パイプラインの建設についても話し合われる」

21 日 09:39 サキ米大統領報道官

「ブリーフィングルームに真実と透明性を取り戻す」  
「初期の電話会談はパートナー、同盟国と行われる」  
「ウイルス関係で議会の指導者とすぐに会う予定」  
「救済策は 1.9 兆ドルを出発点として設計されたのではなく、特別な必要性がありに設計された」  
「外交によりイランの核開発計画に制約をもたらすだろう」  
「弾劾裁判については議会に任せる」

21 日 11:34 米国家安全保障会議(NSC)報道官

「バイデン大統領は中国に対抗することができるように、両党のリーダーとともに働くことを楽しみにしている」  
「(中国によるポンペオ前米務長官ら 28 人への制裁について)中国は非生産的でシニカル」

21 日 16:30 ブラウン独首相府長官

「隣国の感染力が弱まらない場合、国境を閉鎖する必要」

21 日 18:04 ノルウェー中銀(ノルゲバンク)声明

「政策金利はしばらくの間、現在の水準を維持する可能性が高い」  
「政策金利は今後 1 年以上は現在の水準で推移し、その後は緩やかな上昇を示唆」  
「経済動向は前回 12 月の予想に沿ったもの」  
「インフレ率は目標を上回っているが、3 月以降のクローネ高と低賃金成長の見通しから、今後は緩やかになることを示唆」

21 日 18:28 米国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長

「米国は WHO のメンバーであり続ける」  
「WHO への財政的義務を果たす予定」

21 日 15:40 黒田日銀総裁

「景気は厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している」  
「海外経済、一部で感染症再拡大の影響あるが持ち直している」  
「日本経済は、改善基調辿るとみられるが、ペースは緩やか」  
「当面、対面型サービス消費中心に下押し圧力の強い状態続く」  
「消費者物価指数の前年比は、当面マイナスで推移する見込み」  
「成長率見通しは、経済対策効果などで、21 年度中心に幾分上振れ」  
「経済・物価、感染症の影響中心に下振れリスクの方が大きい」  
「コロナの影響を注視、必要あれば躊躇なく追加緩和措置を講じる」  
「政策金利は、現在の長短金利水準、または下回る水準で推移する見通し」  
「政策点検は、副作用を抑制しつつ効果的な政策運営を模索」  
「政策点検は、より効果的な対応を機動的に行うかが問題」  
「政策点検、今の段階で具体的な変更は念頭に置かない」  
「緊急事態宣言、経済に下押し圧力強まっている」  
「イールドカーブを低位で安定させることは重要」  
「デフレのリスクが高いとはみていない」  
「金融不況や自然災害と違い、経済活動は元に戻りやすい」  
「中長期の予想物価上昇率に、大きなマイナス及ぼしていない」

21 日 20:06 トルコ中銀声明

「経済活動は堅調に推移」  
「金融情勢が引き締まる中で、信用力の伸びは鈍化し始めている」  
「インフレと物価安定の恒久的な低下を示す強力な指標が出るまでは、長期にわたって断固として金融引き締めスタンスを維持」  
「必要に応じて追加の金融引き締めを実施」  
「新たなデータや情報があれば、委員会の姿勢を見直す可能性があることを強調」

21 日 20:54 ジョンソン英首相  
「規制解除の時期について言及するのは時期尚早」

21 日 21:50 欧州中央銀行(ECB)声明  
「金利は現行水準またはそれより低い水準にとどまると予想」  
「2022 年 3 月末までもしくは、コロナウイルスの危機段階が終了したと判断するまでは PEPP を継続」

21 日 22:13 南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)声明  
「全体的なインフレ見通しは短中期的に均衡」  
「21 年 GDP 見通しは 3.6%に上方修正、前回予測 3.5%」  
「21 年コア CPI 見通し 3.4%、22 年が 4.0%と前回予測と変わらず」  
「将来のインフレ見通しは、前年の結果を踏まえてより安定的となった」  
「通貨下落によるインフレへのリスクは縮小」

21 日 22:21 クガニャゴ SARB 総裁  
「金融政策は引き続き緩和的」  
「金融政策委員会(MPC)は 3 対 2 で今回の政策を決定」  
「経済や財政状態は変動幅が大きい状況が続くと予測」

21 日 22:39 ラガルド ECB 総裁  
「ユーロ圏経済は第 4 四半期に縮小した」  
「ECB は必要なら全ての政策措置を調整する用意」  
「インフレは依然として低い」  
「短期的な見通しは下振れリスク」  
「為替レートのインフレに与える影響を注視」  
「不確実性は依然として高い」  
「新たな感染とロックダウンが活動を混乱させている」  
「経済動向は 12 月の基本予測にほぼ沿っている」  
「インフレは今後数カ月、上昇する公算」  
「見通しの下振れリスクは以前よりも顕著ではなくなった」  
「経済が回復するにつれてインフレ圧力は上向き公算」  
「市場ベースのインフレ期待はわずかに増した」  
「コロナワクチンとブレグジットはポジティブと認識」  
「パンデミック期間は少なくとも 2022 年 3 月まで」  
「現在の状況は少なくとも 2022 年 3 月まで市場に存在する」  
「ECB は為替レートを非常に注意深く見守っている」

21 日 22:54 マックレム・カナダ銀行(BOC)総裁  
「基本的見通しでは時間の経過とともに大規模緩和を必要としなくなる公算」  
「経済にはかなりの刺激策がある」  
「住宅に投機的な活動は見られない」

22 日 00:59 石油輸出国機構(OPEC)筋  
「OPEC+の減産、12 月は 99%達成」

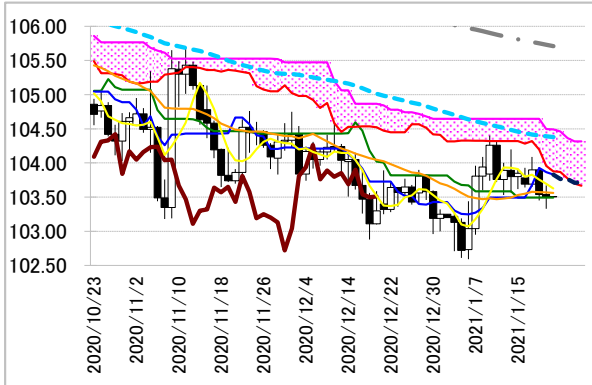
22 日 01:16 ペロン米下院議長(米民主党)  
「2 月第 1 週にはコロナ支援策を議会通過させる準備ができるだろう」  
「トランプ前大統領の弾劾裁判はまもなく始まるだろう」

22 日 02:41 次期財務長官に指名されているジャネット・イエレン氏  
「為替操作の問題はバイデン大統領とともに取り組む」  
「債務の加重平均年限を分析する」  
「対中関税については同盟国の意見を聞かずに変更することはない」

※時間は日本時間



## 〔日足一目均衡表分析〕

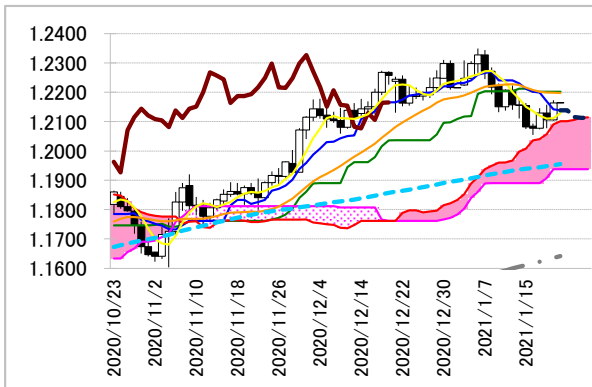


### <ドル円＝転換線付近で動き重くなりそう>

極小陰線引け。一目均衡表・基準線 103.50 円前後の攻防となっている。

基準線前後で下げ渋り、戻りを試すことも想定できる。しかし、低下傾向へ転じた一目・転換線 103.83 円付近からは動きが重くなりそう。戻りが鈍いまま、103 円割れを試す展開を視野に入れて臨みたい。

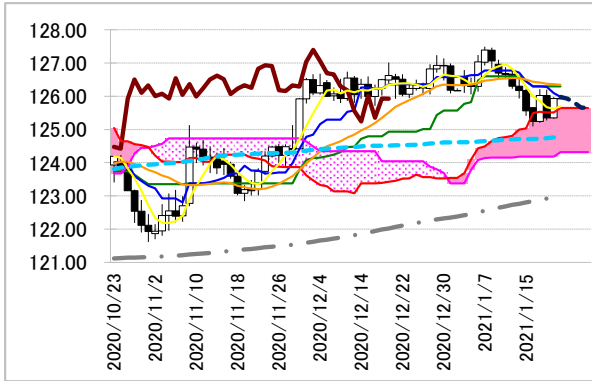
レジスタンス 1	104.09(1/19 高値)
前日終値	103.50
サポート 1	102.95(1/7 安値)
サポート 2	102.59(1/6 安値)



### <ユーロドル＝こなしした転換線は強いサポートになりにくい>

陽線引け。1.21 ドル付近で上昇中の一目均衡表・雲の上限付近で底堅さを示し一時 1.2173 ドルと、目先の抵抗とみられた一目・転換線を上回る上昇となった。一目・基準線や 21 日移動平均線が位置する 1.22 ドル台回復を目指す展開とみる。ただ、1 週間ぶりの水準への反発を受け週末の調整が下向きで進んだ場合、低下傾向の転換線 1.2139 ドルは支えになりにくいと思われ、再び雲付近まで下押しリスクがある。

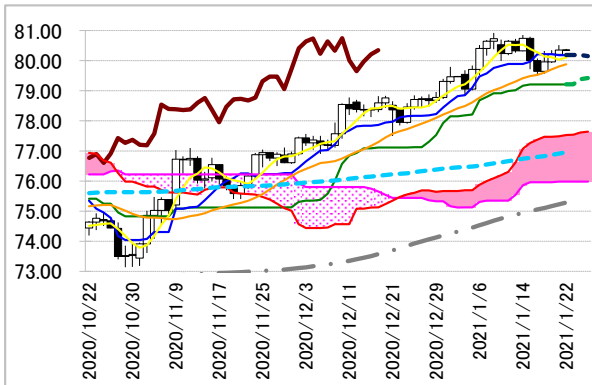
レジスタンス 1	1.2216(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.2164
サポート 1	1.2101(日足一目均衡表・雲の上限)



### <ユーロ円＝転換線付近の攻防、上値に基準線も控える>

陽線引け。一目均衡表・転換線 125.98 ドルを試す展開となっている。低下が続く見込みの同線を超えることができても、次の抵抗となる一目・基準線 126.29 円が比較的近くに控えており上昇の勢いが鈍りそう。いったん下押し流れも想定しておきたい。転換線の動きに沿って、雲の中まで調整が進む展開が予想される。

レジスタンス 1	126.53(1/14 高値)
前日終値	125.93
サポート 1	125.51(ピボット・サポート 1)



### <豪ドル円＝転換線越えて重くても、下落幅拡大は回避可>

小陽線引け。一目均衡表・転換線 80.18 円を上回って NY を引けた。目先の抵抗をこなししたことから、上値を試す展開が期待される。しかし、低下中の同線を上回る水準で相応の売り圧力にさらされることは想定しておきたい。ただ、調整が進んでもやや下値に 21 日移動平均線、79.21 円には今後の上昇が見込まれる一目・基準線が控えており、下落幅の拡大を限定するとみる。

レジスタンス 1	80.86(1/14 高値)
前日終値	80.35
サポート 1	79.88(21 日移動平均線)

